

第2回城東学園新たな学園づくり地域意見交換会 主な御意見・御質問

日 時 場 所	平成30年 8月29日（水）19:00～20:30 土方小学校体育館 8月30日（木）19:00～20:30 佐束小学校体育館 9月1日（土）13:30～15:00 中地区防災センター
出 席	地域住民 合計 51人（検討委員含む） 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学校教育課長、企画政策課長 公共施設マネジメント推進室長、学校教育課主席指導主事 学校教育課指導主事、教育政策室長 教育政策室係長 教育政策室指導主事、教育政策室主任、教育政策室主事

1 小中一貫教育について

①今取り組んでいる小中一貫教育の実践はとてもありがたい。もっと進めて子どもの成長を見ていただいたり、地域の皆さんに理解していただきたい。【下北の方】

②子どもにとって何がベストかという視点が欠けているのではないか。小学校でも英語を勉強して、外国人とコミュニケーションがとれるように国際的な感覚を身に付けられるような教育をしていかなければいけないという国の方針がありながら、田舎の地域の中で、廃校になりそうな危険のあるところで、小中一貫教育という発想自体が全く考えられない。多様性のある価値観や多様性を自然に身に付けていく教育をしていく必要がある。【畑ヶ谷の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・掛川市は30年以上前から小中連携教育を行ってきた。他市にない伝統のある教育でその成果が全国学力学習状況調査にも出ている。
- ・地域の方が学校に入り、色々な話を子どもにしたり、ボランティアとして活動いただいたりしている。
- ・検討委員会でも子どものことを第一に考え、小学校1年生から中学校3年生まで、学びの連続性をつなげることや、人と人のかかわりを多くし、多様な考えを育むという観点から検討を行ってきた。

③小規模校で小中一貫教育をやっているが、大規模校でどうして行わないのか。

【小貴の方】

-- <委員長の回答> -----

- ・一体化するのに西中学校区の1920人は多い。一体化するのに600人くらいが適正規模ではないかということである。例えば小学校1年生から中学校3年生までが集まるとする。それだけの状態になることも難しい。
- ・小中一貫教育を大規模校ではやらないのかということについては、どの学園でも小中一貫教育の研究は進んでおり、西中学校区も施設一体というのは規模的に無理であるが、分離型の中でどうやって小中の子どもたちを9年間かけて育成していったら良いかという研究は進めている。

④少子化で子どもの数が減り、学校施設の維持管理が大変で、そういうことを地域の人も考えてほしいということなら分かるが、小中一貫ということがよく分からない。

【小貫の方】

⑤小中一貫はそんなに良いものなのか。東や西、北中でも取り組んだらどうか。

【小貫の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・教育委員会としては子どもたちの将来の教育環境をどう考えていくのかということをもまず第一だと考えているが、それだけの視点では、行政運営を考えていく上では足りないため、財政状況や人口動態など様々な観点から多面的に考えていくことが必要だと思っている。
- ・子どもの教育を考えたときに単に統廃合をして数を減らせば良いということではなくメリットがあることを検討委員会の中でも説明をしてきた。しかし、小中一貫教育は掛川市内ではやっておらず他地区の状況でしか説明できない。
- ・小中一貫教育はまさに、子どもの目線に立ってどうあるべきか、というのをまず第一に考えるべきものである。
- ・小学校や中学校ではそれぞれの学校で、こういう子どもを育てていこうという目標を立てている。しかし、学園の中でそれぞれ違う教育目標を立てているところが多く、小学校は6年間で、中学校は3年間で何とかしようとしているところがある。小学校と中学校の9年間かけて、どういう子どもを育てていったら良いかというのを、共通理解を図り、小学校の時から同じ方向を見て色々な教育活動を組んで子どもを育てていくところが小中一貫教育の一番元のところである。

⑥切磋琢磨をしなければならないと話したが、北欧は100人以下の学校が多数ある。1クラス20人以下であるがどうなのか。【小貫の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・少人数は教育効果があると思われる。大規模校でも1つのクラスをあえて2つに分けて、小集団指導することも行っている。大規模校でも小規模校の形は作ることができる。しかし、問題は単学級だと人の入れ替わりがないことが非常に苦しい。
- ・小規模校の場合、人の入れ替わりがない中で、人間関係のトラブルや不登校等であつまついた時に変わるチャンスがなく、苦しんでいる子どもがいる。
- ・学級の人数が20人について、国の基準では40人学級となっているが、静岡県については35人学級という形で進めている。平成35年度の城東学園のデータを見ると、1学級あたり26人～27人と現在とあまり変わらない。単純に学校規模が小さいから教師の目が届くと言うわけではなく、そのときの非常に微妙な1～2人の人数によって変わってしまうことは御理解いただきたい。

⑦小学校の教員は全教科教えており、これは非常に大変なこと。5～6年生の高学年は、中学校の専門教員が、色々な教科で専門教育を取り組んでいく。これは子どもたちの学習について非常にプラスになる。【高瀬の方】

⑧小中一貫教育の魅力とは何か。この地区の学校が、どうやったら「いいな」となるのか。中学校と小学校が一緒になることも1つの案ではないかと思う。【中地区の方】

--- <事務局の回答> -----

- ・魅力について、授業では、小学校1年生から中学校3年生までの9年間の学びの連続性があり、質の高い教育を展開できる。
 - ・中学校の教員が小学校で、また小学校の教員が中学校で教えることの効果も挙げられる。
 - ・ICT教育など、効果的に取り組める先進的な教室環境づくりが望める。
-

2 適正規模・適正配置について

①小さな中学校をそのまま放置して、社会に役立つ人間が育つ可能性はまずないだろう。そのためには、第一に城東中と大浜中を一緒にすることが必要である。また、国際的な感覚を身に付けた人材をしっかりと教育していくという視点が欠けている。単純に言えば、大東町にある5つの小学校を1つにまとめてしまえばよい。

【畑ヶ谷の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・平成14年に旧大東町で大浜中と城東中を統合しようとする話が出て、検討委員会の中でまとまった。その後一市二町の合併によってその話は消えてしまったが、平成24年度に一度検討を行っている。そのときに中学校区学園化構想の話が出て、小中の連携をこれまで以上に強めるということで、今日まで来ている。
 - ・城東中と大浜中との統合の話が出てきたが、今回の小中一貫教育の検討については、今ある中学校区を基本として考えており、中学校区同士の統廃合は別の問題として捉えていきたいと思っている。
 - ・学校再編については別に進めており、一貫教育反対という声が地域の声として出てくるようであれば、中学校統合のように進むかもしれない。
-

②横須賀高校と池新田高校との統合反対だと言ったが、小中学校の統廃合を進めるというのは矛盾していないか。【小貫の方】

③今ある学区の再編も今後検討する必要があるかもしれない。適正化ということを考えれば、今まで3小学校で1つの中学校だったところを、もう1つ隣から持ってきて1つの学校にするなど、そういった再編というのも含めて、掛川市内で31校をどのように整理するのか、是非前向きに御検討願いたい。【高瀬の方】

3 児童生徒に関すること

①小学校から中学校に入るときにストレスがあるというが、環境を大きく変えることによって人間はステップアップする。【畑ヶ谷の方】

②子どもの生の声は刺激的で、中学校へ行ったときの中1ギャップの不安は昔と比べて高まっている。【下北の方】

③今の中学生に小学校から中学校に進学するときにどんなストレスがあったのか等、ア

ンケートを取ることにより、直近で関係している子どもたちの状況を把握してはどうか。大人が頭だけで感じて子どもを育てたいんだという発想で、これからの子どもを捉えるのは大変危険なことであると思う。【畑ヶ谷の方】

--- <事務局の回答> -----

- ・子どもたちがどのように思っているのかというアンケートは各学校で行っている。
- ・全国と同様、掛川市においても近年、中学校1年生で不登校になる生徒が増えている現状がある。小学校と中学校の段差をできる限り小さくし、1人の子どもを多くの教師の目で見るとしたいと考えている。

④娘を2人育て、この地区で成人を迎えられた。小学校の頃、1学年1学級しかなく、女の子は9人だったので、どうしても人間関係に難しい部分があった。そのような経験から小学校が1学年1学級というのは非常に厳しい状況になると思う。人間関係の狭く難しいところで、トラブルや悩みが起これば学校に来れなくなるという環境になりやすいという心配はある。【高瀬の方】

⑤今の子どもたちは非常に人間関係づくりが苦手である。だからなおさら色々な子どもがいる中で、自分に気の合う子を見つけていくというと1学年2学級以上はほしいと願っている。【高瀬の方】

⑥少子化と言っているが、出生数そのものはだいたい横ばいで、減っていない。【大坂の方（地区外）】

--- <委員長の回答> -----

- ・資料の中の児童数の推移について、これまでの減り方が続くと、計算上は資料のようになるということで、30年後になると断定して言っているわけではない。
- ・検討委員には、人口減少を想定に入れながら話をしていきましょうということ伝えてきた。

⑦他地区の中学校へ行こうとすることが非常に悲しい。【中地区の方】

4 財政面・公共施設マネジメントについて

①学校数を減らすことにより管理職の人員費も削減できる。【畑ヶ谷の方】

②人口減になる地域の中で耐えることのできない学校になるのではなく、旧大東町の中学校と小学校を1つにすれば財政や校舎の老朽化、エアコンの問題についても経費の節減につながる。【畑ヶ谷の方】

③教育の部分に投資効果という考えを持ち込むのは良くないが、そのままでは私学だけが強くなってしまう。【畑ヶ谷の方】

④市内に31校の小学校と中学校があるのは、誰がどう考えても、この先何年維持できるのかという不安はある。高齢者は益々増えている。今後、その高齢者対策にお金が

益々かかってくる。そうすれば減らすしかない。その中で1学園1中学校残してもらえたらありがたい。【高瀬の方】

5 地域について

- ①田舎に生まれてからずっと育ってきた人だけの意見の中で考えても、とても将来の地域づくりはできないのではないかと思う。【畑ヶ谷の方】
- ②学校は地域の太陽である。佐東地域に小学校がなくなる、幼稚園もなくなる、そういうことで本当に子育て世代がここに住むのか。みんな旧掛川や他へ出て行くことは必然ではないか。【小貫の方】
- ③中地区に小学校も中学校もなくなるということになれば、若い人がこれから子育てをしたいという人が減っていく。そういうことも考えてやられているのか。【大坂の方（地区外）】

6 地域意見交換会について

- ①委員長からの経過を伺い、進んできたことはよく理解できた。【下北の方】
- ②本日の参加者が少ないということで寂しく思っている。これが地域の皆さんの意識、地域の状態なのかと思っている。参加していない方にどのように広めていったら良いかということは、これからの大きな課題だと思う。【下北の方】
- ③あと2回ぐらいで検討委員の方向性が確定すると聞いたが、時期尚早ではないか。【畑ヶ谷の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・一部の人の意見で次に進めていくわけにはいかないので、もう少し広げ、地域の方がどのように考えているのかを吸い上げて最終的な結論を出していきたいと思っている。これまで検討委員の皆さんも、毎回集まっていたいただいて、それぞれ意見を出していただきながらここまで来ていることは御理解いただきたい。

<委員長の回答>

- ・子どもの将来を考えて、冷静かつ客観的に、将来どうなったら良いかという視点を外さずに資料を準備したりこれまでの経験を元に進めてきた。中には、どんどん決めていったら良いのではないかという御意見もいただいている。
- ・皆様の御意見を伺いながら、これから予定している所に少しでも反映できたらと考えている。

-
- ④行政では行政でやるべきことがあり、地域は地域でやるべきことがある。そこが上手くまとまって、素晴らしい成果が出て、誰もが安心して暮らせる方向性が見えて

くるのではないか。地域コーディネーターとして力になりたいと思っている。【土方の方】

⑤参加者の人数はひどい状況ではないか。ちゃんとやってほしい。この人数では2回目をもう一回やってくれることをお願いしたい。【小貫の方】

⑥地域の方々の気持ちがどれだけ反映されているのか。保護者の参加が少ないようであるが、どうやって意見交換会の参加を募ったのか。どういう考えで行われたのかを伺いたい。【大坂の方（地区外）】

--- <事務局の回答> -----

- ・検討委員会では小中一貫教育に相応しい最適な在り方を検討してきた。これまで5回、検討委員に集まっていたいただき、検討を重ねてきた結果、第5回では一体型の方向に進んでいるということを説明させていただいた。
- ・保護者への周知については、5月頃に各幼稚園、保育園、各小学校の保護者を対象とした保護者説明会を開催し、保護者の意見聴取を行い、検討委員会に報告してきた。また、今回の意見交換会については、各保護者にはチラシを配布し、地域には回覧で周知を図った。

⑦本日の意見交換会の資料を地区回覧してもらえないか。【土方地区の方】

--- <事務局の回答> -----

- ・回覧、もしくは全戸配布する。

7 学校施設について

①地元ですっと暮らしていた。孫が小学校と中学校におり、地元の子どもたちがすくすく成長していく姿を毎日見ながら良い学校ができるの良いと思っている。【下北の方】

②一体型の校舎建設が可能であれば、是非良い校舎を作ってください、それができあがれば、地域の魅力になると思う。【高瀬の方】

③一体校の設置場所について、東京女子医科大学撤退後の建物の使用は厳しいか。経費のこともあるのでできれば。【土方の方】

--- 【事務局の回答】 -----

- ・市としてもその広い敷地や新しい建物を活用できないかということで現在検討中である。しかし、大学の意向としては、大学院の研究施設にしたいということもあり、まだ具体的な検討に入っていない。今後大学とも話をしていかなければと考えている。

④大学院で使われるとなると、大学が空かないということになる。経費のかからない場所としても良いところであり、市の予算的にも、とても助かるので希望を押し進めていただいた方が良く思う。【土方の方】

⑤中地区は、今は大坂小へ行っている人も中小学校へ通っていたことがあるなど、合併や離散という様々な歴史がある。交通手段が整っていない中、一体校になったときの子どもたちの登下校の心配がある。【中の方】

⑥大坂小や干浜小も人数が減っていることを考えると、旧大東町で1つの小学校にして、交通網をしっかりとしたものにしていくなどの構想を考えないと、一貫教育をやった結果が出たときに少ない人数になっていて、今と同じ状況をまたやらなければいけないのではないかと考える。【中の方】

<事務局の回答> -----

- ・通学遠距離者については、スクールバスによる通学を考えている。もし可能であれば、地域住民も活用できるスクールバスとなればよい。
 - ・一体型という方向性が定まったときに、次の段階である、学校の設置場所や通学方法を決定していく。
 - ・今回の小中一貫教育に関しては、基本方針の「学園を基本として」に則り、現中学校区で考えている。それとは別に、掛川市全体の適正規模・適正配置については、今後早急に考えていかなければならない課題と認識している。
-

8 その他

①大人は学校は地域の太陽だというのが、子どもは太陽以上の価値のあるものだと思っている。学校が大切ではなくて、子どもが大切という視点でもう一度原点から再検討する必要があるのではないか。【畑ヶ谷の方】

②市役所は本音を言わないできれいな事を言いたがると聞いた。おそらく予算が足りないから統廃合の必要があるけれど、それを言えなくてきれいな事を言っているのではないか。【小貫の方】

-- <事務局の回答> -----

- ・検討委員会の中では、委員の皆様にも多面的な視点で検討していただいている。
 - ・これまでも少子化というのは小中一貫教育の原点だということ申し上げている。また、予算についても維持管理費や施設の更新費用を、今後長期的に削減していかなければならないことも本日の説明の中で申し上げたところである。
-

③本日の会合をなぜクーラーの効いた部屋でしないのか。【小貫の方】